

私の世界

ジャガマイタ

自分を恨んだことがある人はどれくらいいるだろう。生きている人間全員があるかもしれないし、そうでないかもしれない。この時代に生まれてこなかったらもっと幸せだったかもしれない。誰が生まれてくる瞬間を決めているのだろう。きっと神様だと思う。

ところで神様はどこにいるのだろう。「地球は青かった」の言葉で有名なユーリイ・ガガーリンの次に宇宙に行ったゲルマン・チトフが「私は周りを見渡したが、神は見当たらなかった」と言っているからきっと宇宙には神はないのだろう。宇宙にいないのだからきっと想像もおよばない場所にいるのだろう。

話は変わるが神様は人間を完全な存在として作り上げなかったのか。私はその点ですっと神様を憎んでいる。最初から完全に作ってくれていたらこの世の中には家庭内暴力で苦しむ友達もいないしジェンダーで苦しむ人間もいない、人種差別問題もなくなるし女性軽視だってなくなるだろう。少なくとも醜い存在として生まれ世間から疎まれ苦しんでいる人間は私の周りにも多数いる。誰だってそうかもしれない。むろん私だってそうだ。毎日生き抜くことに必死だし毎日死を思って生きている。自分たちが思っている以上に死は近くにあるのだ。神様が完全に作り上げなかったせいで。皆さんはどうだろう。人生を楽しんでいるだろうか。死を感じたことは？自分を醜い存在と感じたことは？一回でもあるのならきっとそれは神様のせいだろう。無神論者のくせに何でもかんでも神様のせいにするなど怒られてしまうから神様批判はこれくらいにしておこう。

話を変えるがこの世界は何なのだろう。何のために我々は自我を持ち生活をしているのだろうか。私たちがしている生活は同じことの繰り返しだ。起きて食べ働いて一休みしました働いて寝る。簡単に書けば大体こんな感じだろう。これを大体 60 年間ずっと繰り返す。我々の日々の中に存在するのはただ刺激のない生活を生き抜くことである。刺激のないことはある意味幸せなのかもしれない。悲惨な世界を知らなくて済むから。

結局のところ私が言いたい事は、すべてはタイミングだということだ。タイミングさえよければ人生はうまくいくのだから。